

令和 6 年度障がい者総合支援協議会 専門部会報告

I 相談支援部会

(1) 活動報告

月日	協議事項
R6. 4. 25	令和6年度の相談支援部会について(年間計画話し合い) 専門部会活動報告(各部会長より)
R6. 5. 23	研修会「地域生活定着支援センターについて」
R6. 6. 27	事例検討① シビックプライド新湊相談支援事業所
R6. 7. 25	地域連携懇談会 (民生児童員協議会との交流会)
R6. 8. 22	事例検討② あいネットいみず提供 ※こども部会長出席
R6. 9. 12	市外視察研修：氷見市の被災地支援について ・氷見市障害者福祉センター「我家」見学 ・相談支援専門員の災害支援について考える (民生・児童委員も参加)
R6. 10. 24	事例検討③ つどい提供 ※就労支援部会長、サービス事業者部会長出席
R6. 11. 28	研修会：ピアカウンセラー(当事者)の声を聞く 視覚障がい者の方によるお話し
R6. 12. 19	勉強会：社会資源マップとは
R7. 1. 23	高齢・障害分野合同事例検討会 「重層的支援体制整備事業について」 ※障がい分野・高齢分野が連携して支援にあたっている事例を紹介
R7. 2. 27	今年度の事例検討から地域課題の抽出 ※活動を通して、また、日々の相談業務の中から感じている課題の抽出をグループワークで行った。
R7. 3. 19	2月に抽出した地域課題の絞り込み 各専門部会長出席

◎令和 6 年度の活動から見えた課題

・ICT化

高齢分野では情報共有システム「トリトラス」を利用している。障がいの分野も参加しているが、現状では、障がい分野は「部屋」の開設権限がない。精神、難病、医療的ケア児等の医療機関や関係機関との情報共有のために、委託の事業所に開設の権限を与えられないものか。

・福祉人材の不足

介護・保育人材の育成は予算化されている。しかし、社会福祉士・精神保健福祉士は該当していない。ソーシャルワーク人材の育成についても施策の必要性を感じる。

・制度の狭間の方の居場所

境界域など手帳の取得の対象にならない方や診断がつかない方など制度の中に入らない方たちの居場所がない。現在登録制になっている地域活動支援センター利用に柔軟性を持たせられないか。

・公共交通機関

コミュニティバスから「のるーと」に変更となり、利用しやすくなった方がいる一方、スマホによる事前予約が難しく自信が持てないため利用しにくいという知的障がい者や高齢障がい者の声が聞かれる。また、身体障がい者の方で「のるーと」では車いすでの乗降ができず、移動支援等で外出できる機会が減って困ったという相談も届いている。

(2) 関係機関

No.	機関名
1	高岡厚生センター射水支所
2	富山県立高岡支援学校
3	高岡市立こまどり支援学校
4	高岡障害者就業・生活支援センター
5	射水市社会福祉協議会
6	あいネットいみず
7	ふらっと
8	つどい
9	むげん
10	片口サポートセンターわが家
11	COCORO SUPPORT
12	輝星
13	相談支援事業所 well
14	チャレンジャー
15	&あんど
16	シビックプライド新湊相談支援事業所
17	相談支援事業所 はやぶさ
18	グリーンヒルズ若草病院
19	太閤山病院
20	射水市社会福祉課

Ⅱ こども部会

(1) 活動報告

◎第1回

日 時	令和6年6月20日(木) 10:00～12:00
場 所	独立行政法人国立病院機構 富山病院
内 容	
議題 (1)講義 「富山病院における児童の医療・福祉・教育について」 講師：富山病院 地域医療連携室 医療ソーシャルワーカー 中神 麻世 (2)富山病院施設見学 (3)質疑応答・意見交換	

◎第2回

日 時	令和6年10月2日(水) 10:00～12:00
場 所	射水市役所 401会議室
内 容	
議題 (1)射水市第3期障がい児福祉計画とこども家庭センターについて (2)座談会 「医療的ケア児の家族として、地域の皆さんに望むこと」 ccct小児がんのコト親の会 代表 竹内 ますみ氏 医療的ケア児のママ 大谷 梨江氏 コーディネーター ふらっと代表 宮袋 季美氏 (3)質疑応答・意見交換等	

◎第3回

日 時	令和7年2月26日(水) 10:00～12:00
場 所	射水市役所 401会議室
内 容	
議題 (1)活動報告「居場所支援について」 社会福祉法人くるみ 理事長 岡本 久子 放課後等デイサービスりすの森malu 児童発達支援管理責任者 吉田 壯哉 (2)令和6年度子ども部会報告 (3)射水市放課後等デイサービスワーキンググループからの活動報告 (4)医療的ケア児の個別災害時あんしんプランについて報告 (医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修にて作成) (5)報告への質疑応答、次年度子ども部会協議事項(案)について	

◎活動報告

- ・第1回は国立病院機構富山病院やふるさと支援学校の見学、病院ワーカーから講義を受けた。思春期医療や教育について実際に見学し話を聞くことで情報提供と共有の機会となった。
- ・第2回は2名の当事者家族から座談会形式で話を聞き、意見交換した。当事者の思いを知り、受け入れ事業所は限られているが、各事業所で何ができるかを考えていくことの必要性を共有した。
- ・第3回は、不登校児に対する居場所の活動内容や取り組みについて報告を受け、障がい児福祉サービスとの連携について協議を深める場となった。今後は、医療との連携について強化を図る必要性があることを確認した。
- ・講義部分等に関しては、市内の全放課後等デイサービス事業所がオンラインで参加している。放課後等デイサービスワーキングとも協働し、課題の共有を図っている。

◎令和6年度の活動から見えた課題

- ・医療的ケア児等の支援体制構築及び市内の医療機関とのさらなる連携強化。(災害時の対応含め)
- ・不登校の障がい児へのサポート体制、居場所支援の必要性。
- ・切れ目なく支援が続く体制づくりや中核的役割を担う児童発達支援センターの必要性。

(2) 関係機関

No.	機関名	備考
1	高岡児童相談所	
2	高岡厚生センター射水支所	
3	高岡市きずな子ども発達支援センター	
4	射水市民生児童委員協議会	
5	一般社団法人Ponteとやま	
6	(独) 国立病院機構富山病院	
7	真生会富山病院	
8	富山県発達障害者支援センター「ほっぷ」	
9	富山県医療的ケア児等支援センター	
10	子どもの権利支援センター「ぱれっと」	
11	NPO法人はあとびあ21	
12	一般社団法人ガチョック	
13	射水市社会福祉協議会	
14	富山県立高岡支援学校	
15	高岡市立こまどり支援学校	
16	射水市立大門中学校	
17	射水市立歌の森小学校	
18	射水市立大島小学校	
19	射水市立小杉中学校	
20	あいネットいみず	事務局
21	ふらっと	部会長
22	チャレンジャー	
23	輝星	
24	COCORO SUPPORT	
25	特定非営利法人むげん	
26	シビックプライド新湊相談支援事業所	
27	相談支援事業所well	
28	相談支援事業所はやぶさ	
29	おはな	
30	くるみの森	
31	こどもサポートハウス おむすび	オンライン
32	こどもサポートハウス おりいぶ	オンライン
33	フレンズ	オンライン
34	アリス	オンライン
35	エール	オンライン
36	COCORO	オンライン
37	紙飛行機	オンライン
38	地域生活支援交流ハウスふらっと（共生型）	オンライン
39	片口デイサービス わが家（共生型）	オンライン
40	チップス いみず	オンライン
41	チャレンジャー	オンライン
42	うたのこ	オンライン
43	こどもサポートハウス おむすび	
44	訪問看護ステーションわか木	
45	訪問看護ステーションままアシスト	
46	射水市保健センター	
47	射水市こども福祉課	
48	射水市子育て支援課	
49	射水市教育委員会 学校教育課	
50	射水市教育委員会 教育センター	
51	射水市社会福祉課	

※市内放課後等デイサービス事業所（13か所）4 オブザーバーとしてオンライン参加あり

Ⅲ 就労支援部会

(1) 活動報告

◎第1回

日 時	令和6年11月7日(木) 16:00～17:30
場 所	射水市役所大島分庁舎
内 容	
議題 (1)開会 (2)部会長挨拶 (3)グループワーク 「就労継続支援事業所職員研修会」	
事前に職場職員に対するアンケート調査を実施し、アンケート結果も参考にしながら、小グループに分かれて意見交換を行った。様々な現場での話題が出て、お互いが顔見知りになる機会となった。日々の現場での困りごとへの対処方法への気づきも含め、施設に持ち帰ったり、今後の施設間の連携に繋がったりするのではないかと思う。	

◎第2回

日 時	令和7年2月20日(木) 14:00～15:30
場 所	オンライン開催
内 容	
議題 (1)開会 (2)部会長挨拶 (3)各機関の活動状況について (4)講義 「ジョブコーチ支援のご紹介～皆が安心して働ける職場を目指して～」 講師：富山障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 猪原 大介氏 障害者職業カウンセラー 秋元 恵梨氏 ジョブコーチと共に就労支援をしたことがある事業所が少ない現状を受けて、富山県障害者職業センターの職業カウンセラー2名に、ジョブコーチ支援について事例を踏まえながら紹介をしていただいた。ジョブコーチ支援について知ること、事業所が一般就労や障害者雇用への検討に繋がってほしいと思った。 (5)質疑応答	

◎令和6年度の活動から見えた課題

- ・公共交通機関の不便さによって、一般就労・事業所の選択肢の幅が狭まる。
- ・就労移行支援事業所がないことで、就労サポート力が弱い。
- ・就労選択支援の対応。

(2) 関係機関

No.	事業所名
1	高岡公共職業安定所 ハローワーク高岡
2	高岡厚生センター射水支所
3	高岡障害者就業・生活支援センター
4	射水商工会議所
5	射水市商工会
6	富山県立高岡支援学校
7	富山県立高岡高等支援学校
8	いみず苑「はばたき」
9	ワークホーム悠々・つどい
10	ジョブステーションさくら北部事業所
11	プラスワン「えみふる」
12	はまれの家小杉
13	Self-A ハニービー小杉東
14	ガチョック
15	ふらっと
16	むげん「ワークプラザここから」
17	グリーンヒルズ若草病院
18	太閤山病院
19	シビックプライド新湊
20	る・ふっくらん
21	射水多機能型就労支援センター
22	射水市商工企業立地課
23	射水市社会福祉課
24	あいネットいみず
25	つどい
26	FORGEE フォージー
27	真生会富山病院

Ⅳ サービス事業者部会

(1) 活動報告

◎第1回

日 時	令和 7 年 1 月 3 0 日 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 3 0
場 所	大島庁舎
内 容	
議題1 「地域生活支援拠点の現状と課題について」	
【事例報告】 ○地域生活支援拠点の利用を検討したが、利用に至らなかったケース 障害者手帳取得後に就労継続支援B型の利用を開始するも、本人の問題行動により数カ月で利用終了。家族は認知症により介護が必要で支援力に乏しい。本人の救急搬送があり、退院直後の生活困難に対して拠点制度の利用を検討したが、「計画作成の事前登録をしていない」「拠点登録の事業所の中に居宅介護の事業所がない」ため、利用に至らなかった。 【主な課題】 ・緊急時に備えて事前に支援計画を作成することを前提としているが、潜在的な利用者へのアウトリーチが難しい ・計画作成の事前登録をしていないケースにおいて、利用までのハードルが高い ・地域生活支援拠点の登録事業所が増えていない（もう一度周知すべき） ・居宅介護や行動援護の事業所の登録がない	
議題2 「障がい者を取り巻く交通事情について」	
【事例報告】 ○交通手段としていたコミュニティバス路線が「のるーと」に切り替わったケース グループホームの利用者が一般就労先までコミュニティバスを利用していたが、ダイヤ改正により、バスは始発のみとなり、その後の便の運行は「のるーと」になった。利用者は携帯を持っておらず、のるーとの予約ができないため、事業所が送迎対応を行うことになった。 【主な課題】 ・のるーとにより、行動範囲が広がった人と使えなくなった人の差が顕著。事前予約の手間が増え、乗換えの複雑さや順路の迂回等で到着予定時刻が読めないことがある。知的障がい者には電話予約が難しい ・本人の代わりに予約することも考えられるので、事業所の職員ものるーとの使い方を理解しておかなければならない（事業所が集まる場で、のるーとの出前講座をしてはどうか） ・軽度の知的障がい者を対象としたスマホの使い方講座の検討も必要ではないか	
議題3 「災害時の安否確認において事業所ができることについて」	
【事例報告】 ○通所利用者の安否確認まで手がまわらない 能登半島地震の際、グループホームの当直であった。グループホームと入所利用者の避難だけで手一杯で、通所利用者のことを考える余裕もなかった。後から振り返ったときに、在宅の方の安否確認をどうやったらできるのかと思った。 【主な意見・課題】 ・通所利用者に関しては、市ではなく事業所が安否確認を行うことで、時間を短縮できるのではないかと。お互いの事業所が協力して、名簿を作成して、各事業所で分担する。障がい者の安否確認の仕組みを作ったらいと思う。連絡のハブとして、事業所を利用するイメージ。 ・射水市としての考えを整理して、県レベルでも考えてほしいことを提案したい	

◎第2回

日 時	令和7年3月27日（木） 13：30～15：30
場 所	大島庁舎
内 容	
研 修 会 演 題 「仕事とハラスメント」について 講 師 富山県人権擁護委員協議会 富山県人権擁護委員 小林 福治 氏 議題1 「行動援護と移動支援の不足について」 【事例報告】 射水市内に行動援護等強度行動障害の方々が外出する際に利用できる事業所がない。現状として、他市の行動援護を利用している。事業所がないことでサービスに繋がられない。 【現状報告】 移動支援は、判断力と体力が必要。ヘルパー不足と高齢化で長時間の移動支援は難しいのが現状。 【主な課題】 行動援護等の事業所が不足していて他市の事業所に依存している上に、ニーズに対応しきれていない。	

◎令和6年度の活動から見えた課題

- ・地域生活支援拠点事業の周知がなされていない
- ・コミュニティバスが一部AIとなり知的障害者が利用できなくなっている
- ・災害時の安否確認を事業所が協力してできないか
- ・行動援護を提供する事業所が市内に少ない現状

(2) 関係機関

No.	事業所名	サービス種別
1	いみず苑 ひびき愛	施設入所
2	いみず苑	共同生活援助
3	のぞみ	共同生活援助
4	小さな幸せの家いみずホーム	共同生活援助
5	さくらグループホーム北部事業所	共同生活援助
6	グループホーム結	共同生活援助
7	特別養護老人ホーム エスポワールこすぎ	短期入所
8	特別養護老人ホーム 大江苑	短期入所
9	社会福祉法人海友会 海王ショートステイ	短期入所
10	いみず苑 ひびき愛	短期入所
11	いみず苑グループホーム短期入所	短期入所
12	社会福祉法人喜寿会 七美ことぶき苑ショートステイ	短期入所
13	特別養護老人ホーム 太閤の杜	短期入所
14	グループホーム結	短期入所
15	通所センターさんが	生活介護
16	地域生活支援・交流ハウスふらっと	生活介護
17	片ロサポートセンターわが家	生活介護
18	イェトカフェ 二の丸	生活介護
19	七美ことぶき苑デイサービスセンター	生活介護（基準該当）
20	海王デイサービスセンター	生活介護（基準該当）
21	デイサービスセンターりらいあんす	生活介護（基準該当）
22	ケアサークルひばり	生活介護（基準該当）
23	エスポワール小杉デイサービスセンター	生活介護（基準該当）
24	大江苑デイサービスセンター	生活介護（基準該当）
25	こぶし園デイサービスセンター	生活介護（基準該当）
26	すずらんデイサービスセンター	生活介護（基準該当）
27	いちにのさんぽデイサービス	生活介護（基準該当）
28	いちにのさんぽ練合	生活介護（基準該当）
29	デイサービスわしづか	生活介護（基準該当）
30	太閤の杜デイサービスセンター	生活介護（基準該当）
31	イヤサー新湊	生活介護（基準該当）
32	特定非営利活動法人 月と太陽	生活介護（基準該当）
33	いみずの里デイサービス	生活介護（基準該当）
34	つくしの家いみず	生活介護
35	よろこび射水緑ケアセンター	居宅介護・同行援護
36	ニチイケアセンター新湊	居宅介護・同行援護
37	大江苑ヘルパーステーション	居宅介護・同行援護
38	射水市大門在宅介護支援センター	居宅介護・同行援護
39	ニチイケアセンターいみず	居宅介護・同行援護
40	ヘルパーステーションやまぶき	居宅介護・同行援護
41	つどい	相談
42	ふらっと	
43	あいネットいみず	
44	むげん	
45	片ロサポートセンターわが家	
46	COCORO SUPPORT	
47	輝星	
48	相談支援事業所well	
49	チャレンジャー	
50	あんど	
51	シビックプライド新湊相談支援事業所	
52	相談支援事業所はやぶさ	
網掛け	→R6年度から増えた事業所	